

## レポート：半田市中心市街地活性化エリアビジョンワークショップ「JR半田駅周辺エリア」

2023年12月18日（月）、半田信用金庫4F会議室で、半田市中心市街地活性化エリアビジョンワークショップ「JR半田駅周辺エリア」2回目を開催しました。

### 【目的】

JR半田駅周辺エリアのエリアビジョンマップを作ることで、市民のみなさんの「こんな風に過ごしたい！」「こんなまちになってほしい！」を具現化します。将来的にエリアビジョンに沿って行くための必要な取り組みの検討をするものになっていきます。

## 未来図づくりワークショップ





地域の皆さんが考える、このエリアの特徴、資源を共有し、現状のエリアの状況をインプットした上で、「こんなことがしたい」、「こんな風に過ごしたい」、「だからこんな環境がいい」につなげ、

高架後から次世代につなぐ未来までを見据えた「来なくなる」・「関わりなくなる」・「住みなくなる」といった多様な要素の詰まった近未来の未来図を作成します。



エリアビジョンマップ

### 【参加人数とワークショップ概要】

第2回目は、小学生から70代のご年配の方、事業をされている方から一般の方まで様々な世代の40名にご参加いただきました。

7,8人1グループとして6グループでのワークショップを行い、とても活発な意見のやり取りが交わされました。

### 【エリアでの過ごし方を考えるためのインプット①1回目の振り返り+全体ワークショップ2回目の内容を共有】

冒頭では、1回目のワークショップの振り返りと全体ワークショップ2回目の内容を振り返りました。

・1回目ワークショップ振り返り：

1回目ワークショップで参加者のみなさんが出した当エリアの「のこしていきたいもの」「あったらいいもの」。

そしてそれらの方向性から導いたキーワードを振り返り、各グループが当エリアに対してどう考えているかを再確認しました。



以下は、6グループの意見の傾向から導いた当エリアの方向性をまとめたシートになります。

<全グループから見える、JR平田駅周辺エリアに共通するコト>

<p><b>商業・サービス</b> 通勤・通学の「ついで利用」の場として</p> <p><b>馴染みのある個性なお店が集まっている</b>  <b>ゆったり時間をすごせる場所が少ない</b>  <small>(カフェ・自習室…)</small>  <small>→市民の生活充実度アップの視点</small></p> <p><b>宿泊施設がほしい</b>  <small>→来街者アップに向けた視点</small></p>	<p><b>歴史・風土</b> 地域の顔として</p> <p><b>のこしていきたい風景や歴史がたくさん</b>  <small>(山車・運河・せご運・山の神・鉄道遺産)</small>  <small>→培ってきたまちの魅力を発信し、活かしていく視点</small></p>
<p><b>交通</b> 多様なモビリティへの乗り換えの場として</p> <p><b>使いやすい駐車場があるとよい</b>  <b>まちなかが移動しやすくなるとよい</b>  <small>(歩行者道・サイクリングロード・次世代モビリティ)</small>  <small>→ウォークアブルなまちに向けた「歩いてみたくなる」視点</small></p>	<p><b>拠节点</b> まちと連続する広場のひとつとして</p> <p><b>いろんな人と気軽にコミュニケーション</b>  <b>自由な活動ができる場がほしい</b>  <small>(広場・イベントスペース・フットサル・バスケ…)</small>  <small>→自由に、安心して活動ができる場づくりの視点</small></p>

<上記キーワードから導き出されるキーワード>

「古いものと新しいもの」「まちの風景」「まちの人と来街者」「線路の東西」「歩いてまわれる」…  
**ちょうどよく、つながるエリア。**

・全体ワークショップの共有

1回目では、年代別のグループごとに中心市街地にあったらいいものを出していき、それらの傾向を踏まえたタイトルをグループごとに出しました。

2回目では、1回目で出た意見を整理し、それに対して、どんな場所になったらいいか？を話し合いました。また、そうなるために「やるべきこと」「目指すべきこと」を掲げ発表しました。

2回の全体ワークショップで出た核となる価値観をご紹介します。

- ① 青春したい
- ② 1日過ごせる特別な空間
- ③ 広場
- ④ 時間を消費できる場所・仕組み
- ⑤ 歩いて楽しい
- ⑥ 多様な世代
- ⑦ 人間起点

という7つの価値観が出されました。

**【エリアでの過ごし方を考えるためのインプット②「まちの連続性について」～まちで過ごすことを楽しむために～】**

1回目に引き続き、全国の駅前空間づくりに詳しい、愛知大学の永柳先生に当エリアのまちの資源から見た「まちの連続性」についてお話いただきました。



まちの資源を知るために当エリアの現地調査から以下の状況が見られました。

- ・半田港の海運業や醸造業等に隣接する湊町として密度の高い市街地を形成してきた歴史がある。
- ・紡績航空産業等の立地によってにぎわった銀座通りの商店街も多くが空き店舗になっている。
- ・建物疎開による大区画がまちを分断している。
- ・当エリア全般的に、空き家化・更地化・駐車場化しており、スポンジ化が進んでいる。
- ・戦前木造建築（料亭、町屋等）も多く点在して残っている。しかし、利用されている物件は一部。
- ・幹線道路を入った狭い路地空間が特徴的（山之神地区等）。

これらのことから、当エリアのまちづくりのポイントは以下の3つと紹介いただきました。

・人が集まるような拠点が少なめなので、重点化できる場所を選び、その集積度を高める工夫が必要。

→①どこに重点を置くか？

・駅と駅隣接地区をひとつの拠点とするように考える。

→②駅一体の整備をどのようにするか？

・空き家化・解体が進むことでまちの魅力がなくなっていく。

その改修や利活用の地域体制の確保が急務。

→③古民家リノベーション体制づくり

### 【ワーク①】

1回目の宿題「JR半田駅周辺エリアに、行ってみたいくなる過ごし方」を各グループ内で共有してもらいました。

それぞれ、平日と休日での過ごし方を共有し、マップに残していただきました。



### 【ワーク②】

ワーク①で共有し合った過ごし方を「似たような視点のもの」はまとめ、「掛け寄せたら新たな価値を生み出そう」等の視点で整理してもらいました。

また、これらの過ごし方を実現するために、どうしたらできるか？という視点で話し合ってもらい、マップに落とし込んでもらいました。

最後にグループごとに何をマップに落としたのか？過ごし方から導いたエリアのタイトルを発表してもらいました。

全6グループのワークの成果を報告します。以下の順序にて記載しています。

●ビジョンマップタイトル：タイトル名

タイトルの説明文

グループワークの様子とワークの成果物

### グループ①

#### ●ビジョンマップタイトル：観光客と地元住民が楽しめる駅周辺計画

半田の古き良き時代の景色を随所に残し、味わいながら楽しむまち。駅高架下や駅近くには、遊び場や観光案内所、たまり場等、あったら便利な施設が集まったまちを考えました。

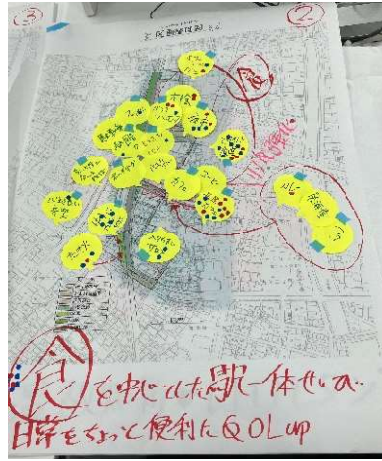


### グループ②

#### ●ビジョンマップタイトル：食を中心とした駅一体整備～日常をちょっと便利に～

新川通りを起点にバラエティ豊かな飲食店で食べることを楽しめるまち。

一方で、駅高架下には誰もが使う施設を配置することで利便性を高め、気分によって使い分けできる休憩エリアがあり、暮らしの質が少し上がるまちを考えました。



### グループ③

#### ●ビジョンマップタイトル：集合 1階を開放せよ

半田駅周辺を大きな遊び場と捉えたまちづくり。

駅高架下は、食も遊びもにぎやかに楽しめ、まちの南北には、休憩できるスポットが点在し、快適にまちを遊び尽くせるまちを考えました。



### グループ④

#### ●ビジョンマップタイトル：住民も観光者もこちよく交流できる空間

歴史文化 / 食べ歩き、買い物 / 地元住民の滞在場所、観光客の拠点という、それぞれの観点で交流できるまちづくりを考えました。



## グループ⑤

### ●ビジョンマップタイトル：温故知新♡レトロモダン

レトロエリアは、歩きながら古き良き風景や文学に触れ、ゆったりとした時を過ごせるエリア。モダンエリアは、地元住民にとっての便利施設や来訪者を受け入れる施設があり、地元の暮らしと観光を両立するエリアの2つが存在するまちづくりを考えました。

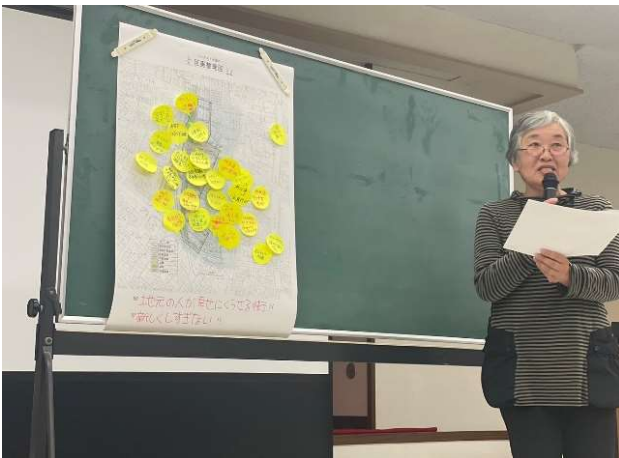


## グループ⑥

### ●ビジョンマップタイトル：地元の人が幸せにくらせる街・新しくしすぎない

住と日常の買い物をセットにしたまちづくり（徒歩で生活しやすいまち）。

まちのあちこちに市民が活動できる場があり、充実した暮らしが叶うまちづくりを考えました。



## 【まとめ】

各グループのビジョンマップから以下の共通項が見られました。

- ・人と人、人とまちとのつながりが感じられること。
- ・古きよき時代の景色、歴史や文化が感じられること。
- ・さまざまな過ごし方ができる居場所があること。

まちのあちこちに、アクティビティやイベントが開催できる場が散りばめられ、人が溜まれる場が点在しており、誰かと共に過ごしたいという想いが汲み取れます。

一方で、一人で佇んだり何もせずゆっくりできる場所もまちの南北に設けられ、

まちの中に自身の居場所のようなものを求めている傾向が見受けられました。

また、空き家等を活用した景観など、歴史を感じる雰囲気のあるまちであることを望む意思も伝わる内容でした。